

(様式4)

平成 22 年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立坂本中学校 教諭 小室 好美

- 1 派遣期日 平成 22 年 10 月 8 日 (金)
- 2 研修先 学校名 東京都港区立赤坂中学校
- 所在地 東京都港区赤坂 9 丁目 2-3

<http://www2.rosenet.ne.jp/~akasaka-j>

- 3 研修内容  
北原延晃教諭の授業見学

(1) 1 年生の授業 (現在進行形の文構造指導)

- ① 英語の歌 “Ob-La-Di, Ob-La-Da”
  - ・視聴覚機器を用いて、カラオケのように字幕のある映像を流しながら歌う。
  - ・発音やリズムが難しいところの映像を一時止め、指導を丁寧に行う。
  - ・生徒が理解できないであろう歌詞の意味を、映像を止め解説する。
- ② ウォームアップ
  - ・ALT と教師が英語でヒントを出しながら、月名(1 月～12 月)を当てるゲームを行う。
- ③ 新文構造の指導
  - ・既習の文構造(be 動詞と一般動詞)の復習
  - ・ALT との対話の中で新文構造の導入をする。
  - ・現在形、現在進行形の違いに気づかせる。
  - ・ALT や教師のジェスチャーを現在進行形を用いて、英文を言わせる。
  - ・自分で言った現在進行形の英文をノートに書かせ、ALT と教師が英文をチェックする。
  - ・ノートチェックをし、生徒の間違ひを見つけ、間違ひやスペリングのルールを説明する。

(2) 3 年生の授業

- ① ウォームアップ
  - ・ペアで単語の問題を出す。
- ② 英語の歌 “If We Hold on Together”
  - ・歌詞の空欄を埋める。(空欄は全て韻を踏んでいる)
  - ・歌詞の好きな箇所に線を引き、同じ箇所に線を引いた者同士グループになる。
- ③ 新出単語の確認
  - ・ALT と発音練習
  - ・フラッシュカードで意味の確認
  - ・フラッシュカードの日本語を見て英単語を言う。
  - ・フラッシュカードの日本語を見て英単語を書く。
- ④ ワークの確認
  - ・宿題のワークを1文ごとに1人ずつ音読する。
- ⑤ 教科書の内容理解と音読
  - ・ALT と音読
  - ・教科書の内容について英問答する。
  - ・黙読
  - ・教科書の内容について全員が英問に答える。

- ・関係代名詞の英文を \_\_\_\_\_ の文に書き換える。

⑥ 英作文

- ・毎回違うテーマについて英語で説明する。(今回は寿司)
- ・テーマに関するキーワードを生徒に出させる。
- ・キーワードをもとに英文をできるだけたくさん作る。

(3) 2年生の授業

① ウォームアップ

- ・LSDテスト
- ・毎回違うトピックから連想する単語を可能な限り書く。(今回は“something you see in the sky”)

② 英語の歌“Country Road”

③ ワークの確認(3年生と同じ)

④ 教科書の音読

- ・ALTと音読
- ・教師のジェスチャーを見て、教科書の英文を言う。

⑤ コミュニケーション活動

- ・教科書の新文構造を用いて(今回は Which is more \_\_\_\_\_ A or B?) できるだけたくさんの人に質問する。
- ・何人に聞いたかによってポイントを獲得する。また、ボーナスポイントの人に聞いた人は、倍のポイントを獲得できる。

(4) 授業者との協議

- ・本日の授業は授業参観のための特別なものでなく、いつも通りの授業である。
- ・学習のきまりを最初に徹底的に指導する。
- ・発音指導は、1年時にかなり時間をかける。
- ・授業の流し方をいつも同じに型にすることで、生徒が授業の流れを理解できるようにする。それにより、生徒が進んで取り組むようになる。
- ・授業の流し方は「新出文型の導入」と「本文の内容理解・音読」。これを繰り返す。
- ・生徒に教科書各ページ25回以上の音読を最低限のノルマとしている。50回以上は読ませたい。全員がきちんと音読をしている。音読回数のチェックは、インタビューテスト時に行っている。
- ・新文構造を学習する度に既習の文法事項を振り返る。常に1年生で習う現在形から振り返るつもりで。ヒントとして、文構造を学習した教科書のページや単語を少しだけ書いたり、既に正解した生徒が教えたりすることで、全員ができるようにしている。
- ・ワークの確認音読は教科書の本文と少しだけ違う英文に触れさせるチャンスである。

## 4 感想

北原先生の授業はとてすばらしいという話を聞き、今回授業を拝見させていただいたが、本当にすばらしい授業だった。授業がテンポ良く進められ、ムダな時間が全くなかった。各活動において「ここまでは全員ができてほしい。」という教師側の目標が、見ている側にも伝わるほど明確であった。そして、目標を達成させるための指導や活動も的を射るもので、このような授業をいつも受けている生徒は、力がつくと確信できた。であるから、全国の公立中学校で最も英検準2級の取得率が高いという実績も頷けた。生徒の発音の良さも先生は誇りをもっており、実際に北原先生の生徒の発音は、一部の生徒だけでなく、どの生徒も発音のレベルが高く、私が担当している生徒と同じ中学生なのかと非常に驚かされた。

北原先生の授業を拝見させていただいていく中で、自分の授業の改善点やこんな授業がしたいというビジョンが見えてきた。東京からの帰りの電車で、自分の授業に取り入れられることは何か、今後どのような授業をしたら良いかを考えた。ある程度自分の授業のやり方が確立していた中で、新たな刺激を受け、とても有意義な日になった。授業改善の意欲が高まった。